

平成29年度第2回理事会議事概要

日 時 : 平成29年5月12日(金) 16:00～17:00

場 所 : 森林総合研究所特別会議室

出席者 :	理事長	沢田 治雄
	理事(企画・総務・森林保険担当)	桂川 裕樹
	理事(研究担当)	田中 浩
	理事(育種事業・森林バイオ担当)	川野 康朗
	理事(森林業務担当)	大山誠一郎
	理事(法令遵守担当)	三木 眞
	監事	鈴木 直子
	監事	平川 泰彦
	総括審議役	上野 司郎
	総括審議役	小山富美男
	総括審議役	大貫 肇
	審議役	河野 晃
	企画部長	坪山 良夫
	総務部長	松本 寛喜

1. 開会

(上野総括審議役)

定刻になりましたので、平成29年度第2回理事会を開催いたします。本日は報告事項が5件となっております。順次説明をお願いいたします。

2. 議事

I-1 平成29年度監事監査計画書について

(平川監事・鈴木監事)

監事監査計画書ですが、昨年度と同じような形で計画しました。研究所関係の実地検査ですが、今年度は九州支所と九州育種場、十日町試験地です。整備センターの実地検査ですが、東北北海道整備局と秋田水源林整備事務所、中部整備局と長野水源林整備事務所、中国四国整備局と高知水源林整備事務所です。今年は水源林造成事業と研究との連携している現場をと考えています。

(沢田理事長)

両監事でまわられるのですか。

(平川監事)

私が整備センターの方に全部まわることはないと思いますが、共同研究を行っているところは見せていただければと思っています。

I-2 森林総合研究所フェイスブックの近況について

(坪山企画部長)

第4期中長期目標期間において、研究開発成果の最大化に向けた取組を強化することとなっています。広報活動では、ホームページ、広報誌「季刊森林総研」に加えてフェイスブックによる情報発信を昨年12月に開始し、約5ヶ月が経過しましたので、その状況を報告します。

運営方針と管理体制については運営開始時に運営ポリシーを策定し、4月には法人の名称変更に伴う修正を行いました。公表する際にも書いておくべき一般的な事項は網羅しています。

これまでの投稿数はのべ74件です。内容は研究成果中心で、ホームページのプレスリリースや研究最前線と連動するようにしています。その他としてイベントの開催情報、サクラの開花など、タイムリーな情報も発信し、写真や図の鮮明さ等にも配慮して投稿しています。フェイスブックを見た方が「いいね!」としたものが223件です。内部の方からのものが多いので、より広く見ていただくにはどうすべきかが課題かと思っています。

(鈴木監事)

223件の「いいね!」で内部の方は何人くらいですか。

(坪山企画部長)

全ての確認まではしていませんが、各投稿欄にそれぞれ名前が出ていますので個々に確認できます。

(田中理事)

内部の者であっても「いいね！」を押していただくと、つながりのある人たちに広がっていくことが期待できます。

(沢田理事長)

例えば私のフェイスブックには、研究所のフェイスブックを「いいね！」としていくことが掲載されますので、私のフェイスブックを見ることが研究所のフェイスブックを見るきっかけになります。

(田中理事)

閲覧数が多いか少ないかと言えばまだ少なく、内部から努力しようとしている状況です。

I-3 九州支所共同特殊実験棟の建替工事について

(松本総務部長)

昨年の熊本地震で被害を受けた九州支所の共同特殊実験棟の建替工事について、今年度進めたいと思っています。予算区分は平成28年度第2次補正予算で、予算科目は森林総合研究所災害復旧事業です。

復旧事業では、被災した実験棟の建替工事を今年度に行います。所在地は、九州支所の現在、苗畑敷となっている箇所に建築します。構造は木造CLT構造2階建て、1階が実験室、2階が書庫で予定しています。

今後のスケジュールは公告を今年5月中旬、入札を6月初旬に行い、年度内に完工する予定です。

(三木理事)

熊本地震以降、本来、特殊実験棟でやるべき実験は何処かに頼まれていたのでしょうか。熊本地震が発生するまで特殊実験棟で行っていた実験は、建替が完成するまでの間はどのようにしているのでしょうか。

(坪山企画部長)

研究分野にもよりますが、必要な実験については使用可能な場所で行っていると思います。

(松本総務部長)

損害を受けた特殊実験棟では、現在、使える部屋で実験器具を動かしている状況です。

今回の工事では、現有の特殊実験棟の隣に新しい特殊実験棟を建て、完成したら実験機器を引っ越すことになります。続けている研究もあれば、震災の影響によって続けない研究もあるものと思います。

(鈴木監事)

工事は被災した実験棟の撤去まで含まれるとの理解でよろしいのでしょうか。

(松本総務部長)

被災した実験棟の撤去まで含まれています。

(桂川理事)

新しい実験棟が完成し、実験機器を移動してから古い実験棟を解体しますので、スケジュール的に今年度いっぱいかかることになります。九州は温暖であり年間を通して工事ができますので何とかかなると思います。

都市地域の中なので、防火の必要性から、木造と言いながらも外装の木材の部材は覆い隠されます。このため、木材を見ることができるよう、建築途中での見学会は行いたいと思います。

(松本総務部長)

聞いた話では、九州地区でC L Tで造る建物は児童福祉施設が1件あるとのことですが、実験施設でC L Tを使用する建物は全国初となります。その面ではPRになるかと思います。また、建物が完成してしまうと、C L Tが見える部分が限られてしまうため、建築途中には行政機関や記者クラブ等への説明会も開催したいと思います。

I-4 平成28年度の原種苗木の配布実績等について

(川野理事)

林木育種センターの主要業務の一つである原種苗木の平成28年度配布実績を報告します。

樹種別ではスギ、ヒノキ、カラマツの順となっています。配布総数15,455本のうち、間伐特措法の特定母樹が5,002本で約1/3を占め、平成27年度の配布実績と比較すると総数では1.2倍、特に特定母樹は1.7倍となっています。

配布した都道府県数も35から39になっています。原種苗木を配布した後、都道府県で採種園や採穂園を造成して苗木を生産する事業体へ供給します。技術指導も併せて行っており、講習会24回、現地指導66回を行いました。

原種苗木の生産配布、採種園等の造成・改良の技術指導を併せて行うことにより、品種改良から原種の生産、苗木の生産まで行き着くように橋渡ししています。苗木の

配布数とか技術指導の回数については法人評価の指標になります。

(沢田理事長)

特定母樹の要求が増えているので、よろしくお願いします。

(上野総括審議役)

樹種別の要望に対して応えられているのでしょうか。

(川野理事)

最近、カラマツのニーズが高まっていますので、品種改良や増殖を進め、これらに応えられるよう努めてしています。単年度だけでなく、中期的な対応をしています。年末までに都道府県から要望をもらい、当年度の生産を行っています。

(河野審議役)

毎年度5年間の計画をもらい、先を見据えながら対応を行っています。全体では計画目標の90%以上達成しています。

(川野理事)

林木育種センター・各育種場でそれぞれ対応しなければならないのですが、これから事業量が増えていきますので、施設の老朽化等に対応していきたいと思います。

(上野総括審議役)

報告事項は以上です。その他としてほかにありますか。

(大貫総括審議役)

保険の加入率ですが、平成27年度は9.3%でしたが平成28年度は8.8%になりそうです。

(沢田理事長)

率は面積ですか。

(桂川理事)

民有林の人工林の面積に対する加入面積の率です。

(沢田理事長)

森林保険80周年を契機に頑張っていたきたいと思います。

(上野総括審議役)

本日の報告は以上でございます。

次回の平成29年度第3回理事会は6月9日(金)を開催予定といたします。

これで平成29年度第2回理事会を終了いたします。

4. 閉会